



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/01/30
SDS整理番号 01575150

製品等のコード : 0157-5150、0157-4130、0157-5160、0157-5170、0157-5180

製品等の名称 : L(+)-アスコルビン酸 (ビタミン C)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) 酸化防止剤、サプリメント、食品添加物、スカベンジャー、代謝作用薬 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分に該当しない
皮膚刺激性/刺激性 : 区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない
生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない
発がん性 : 区分に該当しない
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分に該当しない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性) : 区分に該当しない
水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分に該当しない

絵表示又はシンボル : 該当なし

注意喚起語 : 該当なし

危険有害性情報 : 該当なし

注意書き

【安全対策】
保護眼鏡、保護手袋、保護衣、呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

該当なし

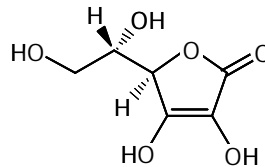
【保管】

日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、



現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	L(+)-アスコルビン酸 (別名) ビタミンC、L-アスコルビン酸、L-キシロアスコルビン酸、 L-3-ケトトレオヘキスロン酸ラクトン、 還元型アスコルビン酸 (英名) L(+)-Ascorbic acid、L-Ascorbic acid、Vitamin C L-3-Ketothreohexuronic acid lactone、 L-Xyloascorbic acid、Ascorbic acid (EC名称)、 L-Ascorbic acid (TSCA名称)
成分及び含有量	:	L(+)-アスコルビン酸、99.6%以上
化学式及び構造式	:	C ₆ H ₈ O ₆ 、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	176.12
官報公示整理番号	:	(5)-62
	化審法	公表化学物質(化審法番号を準用)
	安衛法	
CAS No.	:	50-81-7
EC No.	:	200-066-2
危険有害性成分	:	特になし

4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を流水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
目に入った場合	:	直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	:	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため)
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境に影響を出不さないよう、できるだけ流出を防止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じんを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	:	漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	:	周辺の発火源を速やかに取除く。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	:	
技術的対策	:	本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 粉じんの堆積を防止する。

局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	: 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管 技術的対策 保管条件	: 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 日光や高温多湿を避けて保管する。 容器を密閉して保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質 容器包装材料	: 強酸化剤 ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度 (ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH)	: 生物学的ばく露指標 : 設定されていない 設定されていない
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置 する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具 (防じんマスク) を着用する。
手の保護具	: 保護手袋 (ニトリル製、塩化ビニル製など) を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) を着用 する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 結晶又は結晶性の粉末。酸味がある。
色	: 白色～つすい黄色
臭い	: 無臭
pH	: 2.1～2.6 (5%水溶液)
融点	: 分解 (約190)
凝固点	: データなし
沸点	: 分解
引火点	: データなし
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度 (空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: 1.65 g/cm ³ (25)
比重	: データなし
溶解度	: 水に溶けやすい (約30%、20)。 エタノールにやや溶けにくい (約2%、20)。 ジエチルエーテル、クロロホルムにほとんど溶けない。
オクタノール/水分配係数	: -1.64
発火点	: 約480
分解温度	: 約190
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
可燃性固体	: 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れ がなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.1 (可燃 性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しない とした。
自然発火性固体	: 本品の発火点は約480 あるため、常温の空気と接触しても自然 発火しないことから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

- : 通常の取扱条件において安定である。
 長期間保存すると、うすい黄色に着色する。
 還元性、キレート性が強いので、配合変化を起こしやすい。
 水溶液にすると酸化されやすく、光、アルカリ、酸素に不安定である。
 アルカリ性の溶液では、鉄、銅イオンが共存すると酸化が促進される。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤 (過酸化水素水など) と混触すると反応することがある。
 水溶液は酸性が強いので、金属が腐食される。
- 避けるべき条件 : 日光、高熱、湿気
- 混触危険物質 : 強酸化剤
- 危険有害な分解生成物 : 火災などの高熱により、一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 区分に該当しない。
 ラット LD50 = 11.9 g/kg
 多量に経口摂取しても有害性は低い。
 余剰のビタミンCは一般的には尿中に排出されるが、(ビタミン剤などで) 数グラムレベルで大量に摂取すると下痢を起こす可能性がある。さらに、大量のビタミンCを長期間経口摂取し続けた場合、ビタミンCは酸性であるため胃を痛めるおそれがある。体内でビタミンCの一部がシュウ酸に代謝されるとして、生成されたシュウ酸エステル結晶により腎臓が損傷することで腎不全を発症すると考えられる (香港衛生署がビタミンサプリメントの過剰摂取に注意喚起 (2008/04/25) 独立行政法人 国立健康・栄養研究所)。また、過剰摂取は尿路結石の発生につながるとする説がある (J Urol. 2003 Aug; 170 (2 Pt 1): 397-403) (ビタミンCと結石の関係については諸説あり、見解が分かっている)。
 経皮 分類できない。
 吸入 (蒸気) 分類できない。
 吸入 (粉じん) 分類できない。
- 皮膚刺激性/刺激性 : 区分に該当しない。
 ウサギ皮膚で「刺激性なし」と評価されている (JETOC)。
 まれに物理的な刺激が起きることがある。
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : 区分に該当しない。
 ウサギの試験で「刺激性なし」と評価されている (JETOC)。
 直接、本品 (粉末) が眼に入ると浸透圧、酸性の影響で刺激が現れることがある。
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 分類できない。
- 生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない。
 マウスの小核試験 (体細胞を用いる in vivo 変異原性試験) で陰性であった (JETOC)。
- 発がん性 : 区分に該当しない。
 ラット及びマウスの2年間の経口投与試験で、発がん性が認められなかった (JETOC)。
 なお、IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載がない。
- 生殖毒性 : 区分に該当しない。
 ラットとマウスの妊娠期経口投与において、仔への発生毒性及び催奇形性への影響はなく、親動物に対する妊娠、出産、哺育への影響も認められなかった。しかし、親動物に対する性機能や生殖能力に関するデータがない (JETOC)。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分に該当しない。
 ラットの20000mg/kg/day、10ヶ月の投与試験 (経口と推定) で尿中のシュウ酸塩、カルシウム、鉄が増加したが、腎臓の石灰化はなく、腎臓のカルシウム濃度にも重大な影響はなく、正常で活発であった。また、ラットとマウスの発がん性試験 (最大5%含有飼料で投与、これはラットで2500mg/kg/day、マウスで7500mg/kg/dayに相当) においても、軽い体重減少以外は、ばく露に関する症状はなく、組織病理学的にも影響はなかった。これらの投与量は、区分2のガイダンス値の上限を25から200倍と大きく超えている (JETOC)。
- 誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) :	区分に該当しない。 魚類 (ニジマス) LC50 = 1020mg/L/96hr
水生環境有害性 長期(慢性) :	区分に該当しない。
残留性・分解性 :	データなし。 良分解性
生物蓄積性 :	低濃縮性。 Log Pow = -1.64
土壤中の移動性 :	高移動性。 Koc = 10
オゾン層への有害性 :	本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされて いないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 :	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産 業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して 廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知 の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の 処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま 埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考) (1) 燃焼法 水に溶解し噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑) 等に混合又は 吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却 する。 (2) 活性汚泥法 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
汚染容器及び包装 :	内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って 適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者 に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制 (適用法令)	
陸上規制 :	特段の規制なし (非危険物)
海上規制 :	特段の規制なし (非危険物)
航空規制 :	特段の規制なし (非危険物)
国連番号 :	非該当
国連分類 :	非該当
品名 :	非該当
海洋汚染物質 :	非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類	非該当
特別の安全対策 :	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのない ように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 :	非該当
毒物及び劇物取締法 :	非該当
消防法 :	非該当
化学物質排出管理促進法 (PRTR法) :	非該当 [2023年 (R5年) 4月1日施行にも非該当]
船舶安全法 :	非該当
航空法 :	非該当
海洋汚染防止法 :	非該当
水質汚濁防止法 :	生活環境項目 (施行令第三条第一項) 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 【排水基準】 160mg/L 以下 (日間平均 120mg/L 以下) (注) 排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合は それに従うこと。
輸出貿易管理令 :	キャッチオール規制 (別表第1の16項) 第29類 有機化学品 HSコード : 2936.27 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号 (2023年1月版) : 2936.27-000 「プロビタミン及びビタミン (天然のもの及びこれと 同一の構造を有する合成のもの (天然のものを濃縮

したものを含む。)に限る。)並びにこれらの誘導体で主としてビタミンとして使用するもの並びにこれらの相互の混合物(この項の物品については、溶媒に溶かしてあるかないかを問わない。)

- ビタミン及びその誘導体(混合してないものに限る。): ビタミンC及びその誘導体」

・ 輸入統計番号(2023年1月1日版): 2936.27-000

「プロビタミン及びビタミン(天然のもの及びこれと同一の構造を有する合成のもの(天然のものを濃縮したものを含む。)に限る。)並びにこれらの誘導体で主としてビタミンとして使用するもの並びにこれらの相互の混合物(この項の物品については、溶媒に溶かしてあるかないかを問わない。)

- ビタミン及びその誘導体(混合してないものに限る。): ビタミンC及びその誘導体」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。